

# ヒトパピローマウイルス感染症予防接種予診票（保護者が同伴しない場合）

## ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種を受けるに当たっての説明

○保護者の方へ：必ずお読みください。

※【予防接種の対象となっている小学校6年生～高校1年生に相当する年齢のお子様（満16歳以上の者を除く。）をお持ちの保護者の方へ】

これまで、お子様の予防接種の実施に当たっては、保護者の同伴が必要となっていました。13歳以上（中学1年生～高校1年生（満16歳以上の者を除く。））の方へのヒトパピローマウイルス感染症の予防接種については、保護者がこの予診票の記載事項を読み、理解し、納得してお子様へ予防接種を受けさせることを希望する場合には、予診票に自ら署名することによって、保護者が同伴しなくてもお子様は予防接種を受けることができるようになりました。

（当日は予診票の両面にあらかじめ必要事項を記入のうえ、必ず持参させてください。）

この予診票に署名するに当たっては、接種させることを判断する際に、疑問等があれば、あらかじめ、かかりつけ医や市の予防接種担当に確認して、十分納得したうえで、接種させることを決めてください。

### 1 ヒトパピローマウイルス（HPV）感染症の症状について

ヒトパピローマウイルスは、皮膚や粘膜に感染するウイルスで、100種類以上に分類されています。これらのうち主に粘膜に感染する種類は、性行為を介して生じる表皮の微細なキズから、生殖器粘膜に侵入して感染するウイルスであり、海外においては性活動を行う女性の50%が、生涯で一度は感染すると推定されています。粘膜に感染するHPVのうち少なくとも15種類は子宮頸がんから検出され、「高リスク型HPV」と呼ばれています。高リスク型HPVの中でも16型、18型とよばれる2種類は特に頻度が高く、海外の子宮頸がん発生の約70%に関わっていると推定されています。また、子宮頸がん以外にも、海外において少なくとも90%の肛門がん、40%の膣がん・外陰部がん・陰茎がんに関わっていると推定されています。その他、高リスク型に属さない種類のもは、生殖器にできる良性のイボである尖圭コンジローマの原因となることが分かっています。

### 2 予防接種の効果と副反応について

ワクチンの中には、いくつかの種類ヒトパピローマウイルス（HPV）のウイルス成分が含まれており、予防接種を受けたお子様は、これらに対する免疫を獲得することができます。体内に免疫ができると、HPVにかかるとを防ぐことができます。

ただし、予防接種により、軽い副反応がみられることがあります。また、極めて稀ですが、重い副反応がおこることがあります。予防接種後にみられる反応としては、下記のとおりです。

#### ヒトパピローマウイルスワクチンの主な副反応

主な副反応は、発熱や、局所反応（疼痛、発赤、腫脹）です。また、ワクチン接種後に注射による痛みや心因性の反応等による失神があらわれることがあります。失神による転倒を避けるため、接種後30分程度は体重を預けることのできる背もたれのあるソファに座るなどして様子を見るようにしてください。

稀に報告される重い副反応としては、アナフィラキシー様症状（ショック症状、じんましん、呼吸困難など）、ギラン・バレー症候群、血小板減少性紫斑病（紫斑、鼻出血、口腔粘膜の出血等）、急性散在性脳脊髄炎（ADEM）等が報告されています。

#### ワクチンについて（サーバリックス、ガーダシル、シルガード9という3種類のワクチンがあります）

##### 《サーバリックス：2価》

サーバリックスは、子宮頸がんから最も多く検出されるHPV 16・18型に対する抗原を含んでいます。

接種スケジュールとしては、1回目から1か月後に2回目、1回目から6か月後に3回目を接種します。この間隔で接種できない場合、2回目の接種を1回目の接種から1～2.5か月の間で、3回目の接種を1回目の接種から5～12か月の間で接種します。

##### 《ガーダシル：4価》

ガーダシルは、子宮頸がんから最も多く検出されるHPV 16・18型及び尖圭コンジローマの原因となるHPV 6型・11型に対する抗原を含んでいます。

接種スケジュールとしては、1回目から2か月後に2回目、1回目から6か月後に3回目を接種します。この間隔で接種できない場合、1回目接種から少なくとも1か月以上空けて2回目、2回目から少なくとも3か月以上空けて3回目を接種します。

《シルガード9：9価》

シルガード9は、子宮頸がんから最も多く検出されるHPV 16型・18・31・33・45・52・58型及び尖圭コンジローマの原因となるHPV 6型・11型に対する抗原を含んでいます。

接種スケジュールとしては、1回目から2か月後に2回目、1回目から6か月後に3回目を接種します。この間隔で接種できない場合、1回目接種から少なくとも1か月以上空けて2回目、2回目から少なくとも3か月以上空けて3回目を接種します。なお、15歳未満で1回目の接種を行う場合は1回目から5か月以上あけて2回目を接種し、2回の接種で完了となります。

ただし、どのワクチンであっても、標的とするウイルス型以外のHPVの感染は予防できず、接種時点ですでにHPVに感染している人に対してウイルスを排除したり、発症している子宮頸がんや前がん病変の進行を遅らせたり、治療することはできません。

### 3 予防接種による健康被害救済制度について

- 定期的な予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障がいを残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。
  - 健康被害の程度等に応じて、医療費、医療手当、障害児養育年金、障害年金、死亡一時金、葬祭料の区分があり、法律で定められた金額が支給されます。死亡一時金、葬祭料以外については、治療が終了する又は障害が治癒する期間まで支給されます。
  - ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因（予防接種をする前あるいは後に紛れ込んだ感染症あるいは別の原因等）によるものなのかの因果関係を、予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に補償を受けることができます。
- ※ 給付申請の必要が生じた場合には、診察した医師、保健所、大田市健康増進課へご相談ください。

### 4 接種に当たっての注意事項

予防接種の実施においては、体調の良い日に行うことが原則です。お子様の健康状態が良好でない場合には、かかりつけ医等に相談の上、接種するか否かを決めてください。

また、お子様が以下の状態の場合には予防接種を受けることができません。

- ① 明らかに発熱（通常37.5℃以上をいいます）がある場合
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな場合
- ③ 受けるべき予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある場合
- ④ その他、医師が不適当な状態と判断した場合

なお、現在、妊娠している方は、接種することに注意が必要な方ですので、かかりつけ医とよくご相談ください。

### 5 予防接種を受けた後の注意

- (1) 接種後24時間は副反応に注意してください。
- (2) 接種当日は、いつも通りの生活で構いませんが、激しい運動は避けましょう。
- (3) 接種当日の入浴は差し支えありません。
- (4) 接種後、注射部位のひどい腫れ、高熱、ひきつけなどの症状があったら、医師の診断を受け、その場合には大田市健康増進課までお知らせください。

**ワクチンを接種しても子宮頸がんを完全に防げるものではありません。  
20歳になったら、定期的に子宮頸がん検診を受診しましょう。**